

会 議 録

会議の名称	令和3年度(2021年度)第2回 人権文化のまちづくりをすすめる協議会		
開催日時	令和4年(2022年)2月7日(月) 午後7時00分～午後8時00分		
開催場所	人権平和センター豊中2階大集会室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	人権政策課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由	—		
出席者	委員	石元会長、石黒委員、小牧委員、玉置委員、野崎委員、濱元委員、林委員、三田委員、坂上委員、若柳委員、山下委員	
	事務局その他	【人権政策課】山本人権文化政策監、堀山参事兼人権政策課長、佐津川館長、澤坂主幹、片岡補佐、阪口係長、吉川主査 【学校教育課】花山主幹	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍における市民啓発について 2. コロナ禍における外国人市民の生活等への影響に関する調査研究報告について 3. その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

開会

案件1. コロナ禍における市民啓発について

(1) 今後の啓発について

- ・事務局から、資料1について説明した。

○委員

ポスターを掲示する公共施設は何施設ぐらいか。

ワクチンハラスメントの差別や嫌がらせの例はイラストを交えて示すということだが、それ以外のところは案の文章をそのままポスターに入れ込むという理解でよいか。

これまでに作成したポスターについて、感想などフィードバックはあったか。

●事務局

掲示施設数は、図書館や公共施設など約40～50。

ワクチンハラスメントについては、差別や嫌がらせの例をイラストで表現し、その他の部分については、文字情報としてレイアウトしていく予定。

ポスターのフィードバックについては、具体的な情報は取れていないが、前回作成したものは自治会にも発送しており今も自治会掲示板に掲示いただいているところもあるので、関心は持っていただいていると思っている。

○委員

ポスターの文字情報が多すぎると感じる。短く簡潔に入れないと全部は見てもらえず、メッセージが届かないのではないか。ポスターを熟読する人はあまりいないと思うので、簡潔にして、ぱっと見てぱっとメッセージが伝わるような工夫ができるとうい。

○委員

ポスターの掲示は市内公共施設40カ所あまりということだが、病院や診療所の待合室、学校、会社などもう少し広げてみてはどうか。

●事務局

先ほどお答えした40～50カ所に加えて、小中学校やこども園にも配布する予定。病院や自治会など公共施設以外への掲示は、公共施設への掲示状況をふまえ、次年度検討していきたい。

○委員

前回のポスターのように今回もルビをつけるのか確認しておきたい。

「守られるべき配慮が必要な存在です」との文言について、本人は求めているのに、周りが「あなたは守られるべき存在だ」と決めつけてしまうような感じがあるので、「配慮が必要な場合もある」というような柔らかい表現にするとよいのではないか。

○委員

先ほども意見があったように、文章が長いと感じる。標語のように端的な表現にすると伝わりやすいと思う。

また、ポスターの中に情報が多すぎると感じる。全部この中に収めようとせず、伝えたいことを絞る方がよい。「ワクチンを打たないことへの偏見をなくしましょう」という意味であれば、それに絞ってポスターを作るとよいのではないか。

○委員

同じく、文字が多いと見づらいつと感じた。

「ワクチンハラスメントとは」の説明内容は、ポスターの下の辺りよりも上の方に持ってくる方が伝わる。上に載せる方が、ワクチンハラスメントとはこういうものだということを知ってもらいやすいのではないか。

○会長

皆さんから、情報量が多いということと、チラシではなくポスターなので、レイアウトも含めて分かりやすく見やすいものをとという意見をたくさんいただいた。この意見を取り入れて案を作成いただきたい。案は改めて提示してもらえるのか。

●事務局

会議の場で示すことは難しいので、作成した案を委員の皆さんへメールでお送りし、ご意見をいただければと考えている。

案件2. コロナ禍における外国人市民の生活等への影響に関する調査研究報告について

・事務局から資料2-1、2-2、2-3について説明した。

○委員

興味深く報告書を拝見した。外国人の人たちに避難所や防災訓練のことがなかなか知られていない、参加されていない現実を改めて知った。調査によって数字としてしっかりと結果が出たので、今後、防災関係各所へどのように伝えていくのか、そして、外国人の人たちが避難所や防災訓練を知って、どんどん参加できるようにどのように進めていく

のか見解を聞きたい。

●事務局

豊中市全域を一堂にというのは難しいが、地域ごとに防災の自主組織などがあるので、モデルとして実施協力していただける団体があれば、外国人の皆さんが参加して一緒にできるような防災訓練を実施していきたいと考えている。

○委員

避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」には、外国人の人が来たという項目があり、どのようにサポートするかということをお机上ゲームとして考えている。こういったことも含めてどんどん巻き込んでいってもらえたらと思う。

○委員

今回の調査は、コロナ禍の影響を受けて、脆弱^{ぜいじゃく}な環境に置かれているであろう特別永住者以外の外国人市民にターゲットを絞ったところが非常に重要な点だと思う。本当に困っている人の声はなかなか拾うことが難しいが、今回はインタビュー調査によって声を拾うこともされており、その点も非常に良かったと思う。一方で、やはり、今回見えてこなかった特別永住者の問題がないかということそうではないと思うので、別途指針を作るときには、その辺りもしっかり考えたうえで反映いただきたい。

今回の調査結果と、多文化共生指針策定にあたって 2012 年に実施した「豊中市多文化共生に関するアンケート」調査結果を比べると、とよなか国際交流センターの利用率は改善しつつあると思うので、より一層、行政サービスも含めて利用率が上がるようにどうすればいいかを考えていただきたい。

地域社会を構成する人たちが変わってきている以上は、今までと同じように、日本人と同じように、同じようなサービスの仕方をしていたのでは、それは結果として平等にはつながらないので、そろそろ本腰を入れて考えていかなければいけない。豊中市は外国人の人権について長年力を入れて取り組んできているので、先陣を切って、地域社会の外国人市民にそういった視点で行政サービスを進めていただきたい。

○委員

量的な調査とインタビューによる質的な調査により、非常にリアリティのある、現状が明らかになったすばらしい取組みだと思う。今回の調査は項目数も多く包括的な調査になっているが、回答していただいた外国人の皆さんに対して、どのような調査結果だったかフィードバックすることはできるのか。2月20日の調査結果の報告会は日本語で行われると思うので、それ以外に、回答された人が結果を知ることができる機会はあるか。

●事務局

調査結果の報告書と概要版はホームページに掲載しており、そちらからご覧いただくことが可能。ヒアリング協力者などには、個別に報告会のチラシを配布しており、チラシのQRコードから報告書を確認できるようにしており、何らかの形でご覧いただくことは可能だと考えている。

○委員

ホームページには日本語だけではなく、調査された6言語で結果が公開されているということか。

●事務局

報告書は日本語のみとなっており、翻訳作業まではできていない。

○委員

せめて、概要版だけでも6言語、まずは英語版だけでもあるとよいのではないか。

●事務局

概要版については、とよなか国際交流協会と調整し、対応していきたい。

○委員

高校生や大学生にボランティアで翻訳を呼びかけてはどうか。ボランティアをしたいと思っている人はたくさんいる。

○委員

今回の調査は、20歳代、30歳代の若年層の回答が多いということだが、高齢層のことが気になる。高齢層の回答はどれくらいあったのか。また、ワクチンや医療、介護などの問題についての何か課題は抽出されたのかお聞きしたい。

●事務局

回答者の年齢は、20歳代から40歳代の人がほとんどで、45歳以上から75歳以上の人に関しては若干数となっている。特別永住者と永住者を除くと、どうしても高齢層の人は除外されるところがあり、今回の調査に関しては、若年層を中心にお聞きした。

○会長

今回の調査は^{しっかい}悉皆調査で、全体で2700程配っており、何歳の方に何通依頼を出したのか分かれば、年齢別の回収率が出て、委員がお聞きしたいことがはっきりするのではない

か。

●事務局

報告書には、年齢別の依頼送付数は出していないが、データは持っているので確認する。

○委員

豊中の外国人市民の生活状況の厳しさや子育ての問題、地域社会への参加など、いろいろ重要な知見を含んだ調査結果だと思う。

防災についての意見があったが、地域社会になかなか参加しにくい部分や日本語学習についてどのように学んでいったらいいかわからないといった日常的な悩みがある。そういったことを2月20日には調査研究の報告会もあるが、より一般の市民の皆さんに知っていただいて、身近な外国ルーツの住民の方とどうつながっていくか、どのように地域社会の行事に参加したり防災の活動をしたりしていくかといったことをともに学び合うような研修会などいろいろ企画して行ってほしい。

案件3

(1) 豊中市多文化共生指針改訂に向けたアンケート調査の実施内容について

・事務局から豊中市多文化共生指針改訂に向けたアンケート調査の実施について説明した。

(2) 令和3年度市民意識調査(速報値)について(報告)

(3) 人権啓発パネルの音声ガイド作成について(報告)

事務局から以下3点報告した。

- ・人権平和センター情報紙『じんけんへいわ通信』第4号の発行について
- ・令和3年度市民意識調査速報値について(資料3-1)
- ・人権啓発パネルの音声ガイド作成について(資料3-2)

○委員

音声ガイドの中学生の朗読はすばらしい。ぜひ、普及して行っていただきたい。

- ・人権文化政策監より、第11期人権文化のまちづくりをすすめる協議会協議終了に際して、お礼の挨拶

閉会